

作成日：令和4年12月8日

JN共同事業体作成

令和4年度第1回利用者懇談会議事録

令和4年度 第1回 生涯学習センター利用者懇談会

日時： 令和4年8月26日（金） 19時00分～21時00分

場所： 東久留米市立生涯学習センター 学習室1

出席者：

利用者懇談会委員

【学識経験者】2名

【利用者代表】3名

【指定管理者】施設長、設備管理責任者

【関係行政機関職員】生涯学習課長（生涯学習課係長帯同）

事務局

【指定管理者】副施設長

欠席者：なし

8名の委員の内8名が出席、過半数の出席にて会議を開催

開催の目的

指定管理者が管理運営を行う東久留米市立生涯学習センターの指定管理期間中の運営を適正かつ円滑に行うために、市民のご意見等を伺う場として利用者懇談会を設置する。

議題：

（施設長）

本日お集まりいただいた委員の皆様は、令和3年8月1日より令和5年7月31日までの2年間、利用者懇談会委員としてご就任頂いている方々となる。

「生涯学習センター利用者懇談会設置要綱」には「第3条 懇談会は、委員10人以内で構成する。」とあり、現在委員の方は合計8名。

本日は、8名中8名の委員にご出席いただき、「生涯学習センター利用者懇談会設置要綱」第6条に定める「過半数」に達していることをご報告する。

これまで同様当懇談会は原則として公開扱いとなり、事前に傍聴希望者へのご案内をHPに掲載している。傍聴希望者がいる場合は後ほど入室していただく。（→傍聴者なし）

今回の議事録については前回同様、後日委員の皆様にご確認いただいた後、センターHPで公開する。

それでは会を進めるにあたり、初めに本日用意した資料を確認させていただく。

〈配布資料〉

- ◆ 式次第
- ◆ 資料1 令和3年度 東久留米市立生涯学習センター利用統計
- ◆ 資料2 令和3年度 東久留米市立生涯学習センター事業一覧【実績報告】
- ◆ 資料3 令和4年度 東久留米市立生涯学習センター利用統計
- ◆ 資料4 令和4年度 東久留米市立生涯学習センター事業一覧【報告及び今後の予定】
- ◆ 資料5 令和4年度 施設維持管理報告（令和4年3月以降の実績ならびに今後の予定）
- ◆ 資料6 利用者懇談会委員名簿

◆ **開会**（進行役 施設長）

それでは次第に沿って進めさせていただく。次第の1～4までの進行を私のほうで務めさせていただく。

- ◆ **市担当者紹介**（生涯学習課より自己紹介と挨拶）
- ◆ **設備管理者、事務局紹介**（設備管理責任者、副施設長より自己紹介と挨拶）
- ◆ **会長挨拶**

（会長）

子どもたちが安心して安全に巣立っていくためには高齢者の方々も含めてみんなが幸せに暮らしている場がとても大事である。そういう意味では多世代の方々を念頭に置いた生涯学習センターの意義がますます大きくなる。皆様と一緒に考えていきたいと思う。

5. 報告（進行役 会長）

次第に沿って、令和3年度実績報告「運営・自主事業」に関して施設長より報告をお願いします。

●資料1 令和3年度 東久留米市立生涯学習センター利用統計（施設長より資料を基に報告）

資料上部※の箇所は本年度のコロナ感染拡大防止規制について時系列で記載している。

令和3年度は臨時休館や開館時間の短縮など、年間を通じて新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みをしてきた。加えて5月から10月までの期間は木曜日、土曜日、日曜日がワクチン接種会場となり施設全館貸し切りで一般利用が出来ない状況。また9月末まではスプリンクラー故障によりホール利用中止という状況があった。

- ◆ 利用者は対前年度利用人数計で54,842名（令和2年度が39,403名。前年対比で15,439名増、約1.4倍）コロナ禍の中で利用者様が回復してきた。

●資料2 令和3年度 東久留米市立生涯学習センター事業一覧【実績報告】

- ◆ まろにえ祭りは会場準備を予定していた7/24が急遽ワクチン接種会場となり、十分な準備時間の確保ができないことから規模を縮小して開催した。（パフォーマンスと和太鼓ワークショップのみ）
- ◆ 9月30日までホールスプリンクラー故障のため舞台利用ができなかったため、事業スケジュールを12月から3月までに詰めて7公演実施した。
- ◆ 「市民カラオケコンテスト」「アウトリーチコンサート」は感染拡大防止の観点から中止とした。
- ◆ 放課後講座は応募のあった市民講師にも依頼した。
- ◆ スマホ講座は基本編の他に応用編を実施。参加者に分かりやすいと好評だった。

意見・感想

（会長）

子供向けの講座の数が結構多い印象。報告にあった通り入館者の数も戻ってきている。イベント事業についてもかなり活気が戻って来ている。

（施設長）

やはり特に令和3年度は感染防止の対策などで世の中的にも圧迫感があった。皆さんストレスを抱えられている印象で、活動できる場所を求められていたと思う。まろにえ祭りでのパフォーマンスの募集に関しては非常に応募があり、お子さまの晴れの舞台がないということで保護者の方も結構お集まりいただき、緊急事態宣言の中ではあったが、皆さんに足を運んでいただいた。どこかで学びたい、表現したいという気持ちを強く持たれていたかと思う。

（利用者代表）

活気があるというか、活気を一生懸命作られていると思う。ご苦労があるだろうなと感心している。

（施設長）

ありがとうございます。

（会長）

次第に沿って、令和4年度実績報告「運営・自主事業」に関して施設長より、ならびに施設維持管理報告を設備管理責任者に報告をお願いします。

●資料3 令和4年度 東久留米市立生涯学習センター利用統計

資料には令和4年7月の実績までが入っている。

- ◆ 「1. 月曜日利用者推移」月曜日利用者シェア前年度累計が10.3%、今年は5.3%半分になっている。昨年はホール利用が出来なかったため、その影響で昨年の月曜利用の構成比は高くなっている。
- ◆ 「2. 午後利用者数推移」6月と7月の件数がマイナスになっている。昨年はワクチン接種会場になった際件数のみのカウントをしている。ワクチン接種会場は全館おさえになっているので、その

分件数も多かった、その影響である。利用者人数でいくと例えば6月は1.6倍、7月はまろにえ祭りをコロナ前と同じ規模で開催したこともあり2.3倍で利用者数は大きく伸びている。午後2番の人数も倍になっており、この時間枠で活動する団体が増えてきている。

- 「3. 生涯学習センター利用実績（月別総数）」令和3年7月までの利用人数は12,502人、令和4年7月までの利用人数は30,873人で、2.5倍いっしょっている。この推移のままいくと1年間で10万人弱の人数が見込めるので、3年ぶりに10万人台の利用者数に上がってくると思う。そうすると令和4年度は利用人数ベースでみると、前年対比で2倍を超え、コロナ前2018年までの実績と比べても8掛けといった見通しとなる。

●資料4 令和4年度 東久留米市立生涯学習センター事業一覧【報告及び今後の予定】

- まろにえ祭りは直近2年間においては新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で規模を縮小していたが、本年はコロナ前の規模に戻して開催した。この時期から都内の感染者が大幅に上がり、2万人台に突入したタイミングであったが、館としては換気を徹底し、ドアを開放することで館内の空気を通した。また市にもご協力いただき、大型の扇風機を3台お借りしさらに換気を促進する取り組みを行った。参加者は非常に楽しみにしていたようで、チャリティーも例年になく集まり、合計で13万円程の募金を頂いた。集まった募金は内閣府経由で被災地にお届けした。イベントとしては成功し、クラスターが発生したという報告も入っていない。出演・出展者447名、来場者数2,259名、合計2,706名が参加した。
- 初心者向けのスマホ講座を2日間計4回追加で実施する。
- 夏休み学習室 実施期間中の集計で令和4年度は95名。（令和3年度が85名）主に中学生の方が3割くらいの割合。
- クリスマス講座の参加費は2,000円で記載されているが、材料のリサイクルを行うことで参加費を800円で設定が可能となった。

●資料5 令和4年度 施設維持管理報告（令和4年3月以降の実績ならびに今後の予定）

- 「令和4年3月から6月までの修繕工事实績」 実績計3件。受水槽給水装置不具合に伴う緊急対応・西側外構サクラ剪定作業・学習室5滑り出し窓ハンドル修理作業。
- 「修繕予定」 修繕予定は4件（冷温水発生機部品交換作業、受水槽FM弁交換作業・1F GH P室内機（楽屋2）修理作業・消防設備不具合是正作業）
- 「修繕計画」①各所建具修理 客席扉、音楽室、創作室、陶芸窯の扉部品交換を検討。
②舞台袖用ミキサー卓更新 8個あるうち1個が不具合あり。
③保育室汚物流し用配管交換 汚物流しの衛生器具が止水不良のため配管交換予定。

質疑応答、意見

（利用者代表）

前回の「事業一覧」資料では参加者数のところに定員の人数が記載されていたので定員に対してどのくらいの人数が参加したのかが分かりやすかった。例えば参加者が20人としか書かれていないとそれが満員なのかどうかが分からない。定員と実績を入れていただければ、結果がどうだったのかが分かりやすい。

（施設長）

承知した。

（利用者代表）

夏休み講座はコロナの前には満員になったことがあまり無かった記憶があるが、前と何か変わったのか。

（施設長）

今回お申込みいただいた方がキャンセルもなく全員がご参加いただいた結果で、何か変えたわけではない。

（利用者代表）

まろにえ祭りの参加人数が増えた。コロナに関係なく一時すごく少ない時期があり、今回は告知や声掛けやSNSでの広報を非常に多く実施されたのだと感じた。

（施設長）

これでも昨今の状況を鑑みると小学校へのチラシ配布などは控えていた方だったので、それでもこれだけの人数の方が来ていただいたことに驚いている。

(利用者代表)

コロナ禍で、未だ子どもの体験学習自体が少ない。

例えばふれあい広場が閉まっていることも影響して、ウサギやモルモットなどと触れ合う機会が得られず、偶然に小動物と出会っても触って大丈夫なのか不安になってしまう様子があったり、そもそも興味が向きにくい様子を見かける。

体験学習が止まってしまった影響は実は小さい子たちにとってものすごく大きいことだと思う。夏休みだけでも満員になっている体験学習だが、コロナは恐らく来年も完全に収まることはないと思うので、夏休み自由研究は体験系、普段触れない爬虫類などに触れる機会を設けるのも良いと思う。屋内の博物館系はこの時期躊躇してしまう。動物園は行けるが屋内の博物館とか水族館は密にならないように人ごみの多いところは避けて展示を見ているように感じる。特に小さいお子様を連れた世代には多く見られる。そのような視点で日常で触れ合えない生き物との出会うきっかけ作りを可能な限りできると、体験学習が止まらないで結果的にその子たちが大きくなったときに繋がっていくのではないかと最近非常に感じている。

(利用者代表)

放課後講座について。開催時間的なこともあり中学生の参加はあるのか。

(施設長)

実際お申込みされている方は小学校低学年の子を中心に、リピーターとなっている。内容的にも中学生だと物足りない内容かもしれない。

(利用者代表)

おとなが遊ぶアート講座について、年齢層はどのあたりの方が参加したのか。

(副施設長)

年齢層は40代・50代の方が中心で、保育士の方もいた。

(利用者代表)

子どもたちと高齢者の中間層の方たちが参加してくれるというのは、今後に向けてとても良い繋がりをもっていくのではないかと思う。是非中間年齢層のための講座を続けていただくとそれから以後のことが繋がっていくのではないか。活動中のいろいろなサークルも高齢化してきて大変なようだ。こういう方たちがいろんな企画に参加していただいて、そこからいろいろなサークルを盛り上げてほしい。

(副施設長)

講座の中では大人というジャンルだけなので悩み相談をされるといった交流も生まれていた。またこういった講座に参加して友人を作りたいという方もいた。

(利用者代表)

すごく参加者が喜んでいたり様子や、こういう講座を待っていたということが記載されており、是非またこういう企画を作っていただけたらと思う。お子さんとお母さんというのはたくさんあるのだが、中間層の方の対象講座ということで、どうなのがいいのか私もわからないのだが、参加された方で同年代の方に集まっていたらご意見いただくと良いのではないかと思う。

(副施設長)

参加者からはおとなが遊ぶシリーズはこういう企画ならいいのではというご提案もいただいた。楽器を弾く体験とかどうでしょうかといったご意見もいただいた。

(利用者代表)

防災サバイバル講座は、これから何が起こるか分からない中でとても良い講座だと思う。こういうのは家族みんなで参加できるので良い企画だと思う。

(副施設長)

市民大学発祥の防災まちづくりの会・東久留米の方々が、今回スペシャルニーズ対応として車いすを社会福

社協議会から借りてきてくださり、専門指導はシニアアシストおもしろい講師の派遣依頼をしていただいた。小学校の先生も参加し、地域に密着している方々からご指導をいただけとても充実した内容だった。

(利用者代表)

防災意識が本当に必要だが、TVでは見るが実際に自分でできるのかといったらこういう体験講座に参加してみないと出来ないし、皆意識は高くいずれ災害が起こることに備え色々なものを備蓄している人が増えているように思う。こういった講座に参加したほうが良いと思う。

(利用者代表)

最近小学生が昔話に触れずに育ってきていることも関係しているのか、ウサギと亀などのたとえ話が通用しないことがある。学校で習うものではなく生涯学習の分野で昔話に触れる機会があっても良いのではと思う。

終戦記念日、当事者から当時の話を今聞かなければ、直接聞くことができなくなってしまうかもしれないということで、我が子の周りでも自主的に広島などを訪れる等昔を知るアクションを起こしている子も多い。Instagramなどでそれが公開されることで興味が広がることも起きる。

今私たちが当たり前になっていることを今の子どもたちは勉強したいとか、夏休みの期間にやりたいと希望していたりするのかもしれない。

(会長)

ウクライナの問題で、子どもだけでなく大人が説明できるかということとなんであんなにプーチンは頑張るのだろうかとか、よって立つ考え方が違うということが我々は民主主義の考え方に慣れているので、あのような専制主義が成り立つことがおかしいという風に思っているのだが、それを覆されてしまっている。その点は、事業にもある「おとなが遊ぶアート」の話にもあるように、学び直すということは実は大人の方にも必要。それがあから子どもたちにもしっかりと伝える、というより話し相手になれるということが出来るのだと思う。

(副会長)

今は全国オンラインでも繋がる為、私の勤務校では中学生が毎年広島に行くのだが今年には行けなかったのがオンラインで繋ぎ、話を伺わせてもらった。自分と関わりのない人の、高齢者の方の話を聞いて一緒に生きる能力を身につけるためにやっているものは、センターの講座の中でもあっても良いのではないかと思う。

(会長)

企画が多岐にわたっていて、対象となる年齢も穴が無くなってきた。充実してきているからこそ今のようならにこういう講座があれば、というご意見もたくさん出てきた。高齢者あるいはおとなの方のスマホ講座も画期的で素晴らしく、それは継続していただけるわけですし、行政サービスを実際にスマホで体験するという身近な企画もあり、市の方では実際にどうだったのかをお伺いしたい。

(利用者代表)

スマホ講座に参加するこの年代の方のアナログな情報発信能力はとて高いので、「ここ行った？」など口コミでどんどん広がっていくのではないかと思う。

(副施設長)

行政サービス体験会については、クピオプラスという75歳以下の市のサービスに対応するものを説明するはずだったのだが、募集の段階で説明が上手く伝わらなかったのか対象年齢以上の方が参加され、結局はそこでスマホの使い方から教えるといったことがあった。市のサービスもこれからはデジタル化していくこともあるし、今回は対象年齢外のサービスのご紹介だが、こういうので慣れてみませんか、というアプローチを参加者には行った。参加者たちも「自分たちも慣れていかなくてもいけないのだと思った」という声が非常に多かった。

(関係行政機関職員)

今の内容に補足になるが、クピオプラスとは保険年金課で行っている国民健康保険加入者を対象にしたサービスの説明ということで、国民健康保険の運営協議会委員よりこういった取り組みを広げるには講座を設けたらどうかとご意見いただいたのが発端となって始まっている。ただし国民健康保険というのは会社の厚生年金に入っていない方が対象なので基本的には定年を迎えた方、自営業の方が対象になる。また75歳に

なると国民健康保険を辞めて後期高齢者医療制度に入らないとならないため、対象としては主に60～75歳の間の方という風になっている。

(会長)

市の施策との連動もとても大事だと思う。学んでもらう側からするとサービスも提供できる。福祉の世界ではアクセシビリティというのだが、情報発信してもそれが届いていないとそれはアクセスしてもらえない。そのアクセスしてもらうために情報発信だけでなく説明したり仲間づくりをしたり、結果サービスが届く。待っているだけではサービスは届けられないという。非常に福祉の世界では大事にしているところがあって、そういう意味ではこういうところで生涯学習でしっかり力をつけてそしてサービスを利用できるようにするというのは非常に大事なことである。

(利用者代表)

これでもかこれでもかとサービスが用意されていても、何も届かない人には届かないという。その人本人ではなくても、周りが「ある」ということを知っておくことで、困ったら支援が必要な人を繋げてあげるといふ形もあるのではないかな。

(利用者代表)

まろにえ祭りで広報されることがあったように記憶しているが、生涯学習センターは利用者の居住地域が一番広い。金山町など遠い地域からも来ている。そういう意味でも生涯学習センターがやる意味はすごく大きいことだと思う。

(会長)

コロナが3年目を迎えて、感染は今も非常に厳しい状況ではあるけれども、利用者数が戻って来ているというのは今日の報告を聞いてだいぶ実感が出来た。

(関係行政機関職員)

これだけ古い施設で修繕箇所がある中で、利用者様にとっては不十分な部分も出てきているが、施設保全营については野村不動産パートナーズを中心にやっていただき、またこのような素晴らしい企画運営をJTBコミュニケーションデザインの方でやっていただき、本当に感謝申し上げます。

質疑応答、意見、自由討論

【学習室パーティションについて】

(利用者代表)

新たに設置した学習室1・2間の簡易パーティションは自由に外せるのか。外したパーティションはどこにしまうのか。

文化祭期間中、長期間外す場合はどうするのか。

(施設長)

基本は学習室2のみ利用となっており、もしくは1・2を繋げてご利用をご希望の方も学習室2を取っていただき、そのあとお申し出頂けると繋げて使うことが出来る。簡易パーティションは折り畳むことができるため、使用しない時は学習室1番の隅にコンパクトにまとめておいている。文化祭の場合は長期間ご利用になられるので、場合によってパーティションが要らない期間が多ければどこかに移動させることも可能。

(利用者代表)

パーティションが新しくなったことで、部屋がきれいに見える。汚い壁がぶら下がっているより。もちろん以前のパーティションのように間仕切りがきちんと天井まであったほうがもちろん良いのだが、あれは本当に重たかった。

(関係行政機関職員)

以前使用していたパーティションは現在動かなくなってしまった。防音性の高いオーダーメイドの間仕切りだったもので、修理が出来ない状況となってしまった。急遽今のパーティションを用意して現状のような運営となった。

【施設改修について】

(利用者代表)

全館改装が今年度から始まる予定だったが中止となった。今後の予定はあるのか。

(関係行政機関職員)

市全般の話になるのだが、今年新市長が誕生し市長が未来志向の公共施設マネジメントを打ち出している。その中で必要な部分について改修という形で、今年一年かけて施設全般を見直そうじゃないかということで担当の方で動いている。市長をはじめとする担当の方でも、当然生涯学習センターがこういった利用をされているというのはもちろん承知しており、いい方向でいま検討していきたいと捉えている。ただし具体的な話は進んでいないということで、施設改修については現在ペンディング中である。

【学習室1・2について】

(副会長)

今までは学習室1・2を別々に利用が出来たのが、現在はどちらか1部屋でしか利用が出来ない。これについては利用者様の反応はどうか。

(施設長)

当初は学習室2番だけを開放する形にしていたのだが、部屋の造りの問題(プロジェクターの位置など)で学習室1でないとダメですというお客様もいる。そういったお客様にはご要望いただければ、ご予約いただくのは学習室2なのだが実際のご利用は学習室1でご利用いただくという対応などをさせていただいている。Wi-Fiが通っているのだが、従来の間仕切りがあったところにアンテナがあるため届きにくかったのか、間仕切りが無くなったことで非常に感度が良くなったというお話を頂いたことがあった。

(副会長)

部屋の数が減り、競争率が上がって困るといった声はあるのか。

(施設長)

多少はある。ただ、抽選の競争率は上がるのだが、一度の抽選申込で複数申込をして当たっても、実際使うのはそのうちの一部であり、使わない部屋は手放してしまう。15日から空き枠が開放された際に、抽選から漏れたお客様がそこを取り直すという流れになる。最初は色々ご意見されていたお客様もいらっしまったのだが、今はなんとか運営できるようになった。もちろん潜在的に何もおっしゃらないお客様もいると思うが、現状はこのように運営している。

(利用者代表)

市内全般で2部屋合計定員の60名を収容できる会場はあまりなく、また仕切れることで1部屋ごとのサイズ感としても丁度よい。他に代わりになる施設がない。他で借りると会場規模が大きくなったりして、限られた予算、利用目的に適した会場で行うので選択肢が狭くなる。学習室1・2を借りられる機会が多くなればよいと思う。

【まろにえ祭りについて】

(利用者代表)

新型コロナウイルス感染症対策に関して、東京に関しては慣れが出てきている。地方の方が敏感になっている。東京は感染者の数が上がったとしても気を付けて、外に出る人の動きも出てきている。コロナ禍前のセンター利用者数は10万人でも減少傾向、という流れがあった。早く利用者数が回復して欲しいと思う。

(会長)

まろにえ祭りでこれだけの規模で出来たということは、センターの感染対策もさることながら、参加者の意識が高く、ルールを遵守していることもあるからこそ協力しあってこれだけのことが出来たのではないかと。

(利用者代表)

パフォーマンス・ロビーはいつも人が入れ替わっていた。

(副施設長)

行政の協力も非常に大きかった。特に田無警察署は来場人数が予想を大幅に超えたことにより時間途中でブースをたたむことにはなったが、実物の白バイ展示・体験、マスコットキャラクターとの記念撮影など多大な協力をしてくださった。白バイに乗れるという情報で来館された親子も複数おり、目玉企画があったことで来場者を増やすことに繋がった。

(利用者代表)

東久留米消防署には家具転倒防止説明をととても丁寧に対応してもらった。

(副施設長)

東日本大震災チャリティーの主旨を非常にご理解いただき、署長のアイデアで急遽追加になった企画が家具転倒防止と震災写真展示だった。

(副会長)

企画を言われた通りにやるのではなく、お互いがこの方が良いのではないかとイメージを共有し、アイデアを出し合うことが出来るのは非常に良いことである。

(利用者代表)

まろにえ祭りで色々なものを買ったり、パフォーマンスを見たりとそれぞれ楽しいが、行政担当者の貴重な話を聞けたりして、まろにえ祭りに参加することで学べるので得した気持ちになり、気分良く帰ることが出来た。

(会長)

日頃から行政とのつながりや市民活動をやっているからこそ、まろにえ祭りでいろいろ活かせるということなのだと思う。アートもありダンスもあり、文化的な活動を学ぶということもある。

【市民活動と相談できる場について】

(利用者代表)

放課後講座で講師をされた文化協会の野澤先生は非常に高名な方で、東久留米はこういった方が静かに住まれている。10数年前は行政の方で、市民活動の団体登録をすると活動補助を出していることがあったと記憶している。保育園に行くと30代ぐらいの母親たちが「市が補助してくれるし何かやろう」という機運があった。しかし補助が止まった時にやりにくいわけでは無いが、きっかけが無くなってしまった。

(会長)

金額では無いというか、もちろん金額は多ければ多いほどいいと思うが、市民の方のきっかけや話題にする時のものとしてなので、行政予算的にはそれはかかるでしょうが施策的にはとても良い。

(利用者代表)

制度があったころ、保育園の保護者仲間の中で活動費がもらえるから何かやろうよという話があがることもあった。制度が無くなったことで、きっかけが一つなくなったということはあると思う。時代もあり子育て世代の集合体が次々と無くなって行っている。また、昔はできる人がやろうというスタンスがいつの間にか強制するようになったり、政治色が強くなったり、いろんな要因で若いお母さんたちが繋がる場所が少なくなり、悩みを簡単にさらけ出せる関係性ではなくなっているように感じている。その年代の保護者がもう少し集まりやすかったりすると、子育ての悩みも行政への一方通行な問い合わせではなくて、もう少し柔らかい形になったりする一面も期待できるように思う。もちろん、それが全てではない。子育ても多様な時代になってきている。

私は発達について相談を受ける活動をしているが、その中で感じる事は、今はスマホなどで色々な事がすぐに調べられたり、情報が沢山あふれている時代にもかかわらず15年前とお母さんたちの悩みや不安があまり変わっていなかったりする。情報があまりに多すぎて、必要な情報が取りにくいのか？と思ったりする。仲間の中で発達とかそういう相談をしたら、おたくのお子さん発達障害グレーゾーン？と思われ仲間ではなくなるのでは？と自分自身が孤立してしまう恐れを感じてしまったりするお母さんもいる。世の中が多様化しているのに、コミュニティが多様化しきれていないことで対人に対してのハードルが上がっているように感じる場面もある。

発達障害という言葉が世の中が使い過ぎている部分もあり、ものすごく子育てしにくい印象がある。少し周囲と違う行動が見られたり、のんびりなところがあると勝手に発達障害を疑われたりする事もあり、周囲と違うペースで育つお子さんを持つ家庭にとっては周囲からの視線が辛いと思う。

【企画全般と他との連携について】

(会長)

大事なお話を今日は沢山いただいた。様々な企画かつ対象も広がって切れ目なくという事業が出来ているという中で、生涯学習センターにいらっしゃっている方々の中に実は発達障害の苦しみ、難しさや逆に楽しさを感じていらっしゃる方ももともといる、ある意味では自然に紛れ込んでくれるというか、そういうことも意識できると良いかと思う。あまりそれを際立たせると今度は来にくくなるので、さりげなく来られるような雰囲気、実は個別的な支援がそこから始まるかそういうのもあっていいのかなど。なかなかこういう場には出てこない企画ではあるが、非常に大事なことと思う。

何年か前に発言したのだが、生活困窮家庭のお子さん達の、なかなかこういう機会、こういうことを学ぼうと思っても出来ないというところを少し意識的に来ていただく働きかけも必要なのではないか。これは課を超えた連携が必要になってくると思うが生活保護の関係のところなどという連携をもっともっと、実は生涯学習センターは様々な連携を実はしやすい場であることはすごく思う。かなりここまで事業の精度が上がっている中でそういう部分があっても、あるというのも非常に東久留米の特徴として出せるのではないかと思う。

(関係行政機関職員)

以前に生活保護の担当課長をしていたが、26市の中でも保護率が平均より高い自治体である。会長のような観点から生涯学習センターを捉えたことが無かったので会長のご意見を参考とすべきと思っている。私自身も実際に困窮家庭の事務をさせていただいたが、やはり親が外に出させないなど、ドラマであるようなものを目の当たりにした。会長のおっしゃる通り、さりげなく来られる場所があってもいいのかなというように思っている。

(会長)

夏休みでの学習支援の場というか、集まって勉強するということにも、個々が活用できているということがある。さりげなくみんな集まってきているけれども、実はなかなか塾に行けない子どもたちのお互い学びあう場など。色々な可能性としてあるのかなと思う。

(施設長)

実際に福祉総務課がセンターを使って学習支援をしており、場所の提供だけであるが関わっている。

(会長)

素晴らしいことだと思う。とても細やかなところまで行っているセンターの色々な取り組みや意図などは、もう少しそのあたりアピールして発信すると良い。

6. 事務連絡 (施設長)

今回は、令和4年度第2回利用者懇談会を2月頃に開きたいと考えている。詳細は直近になったらご連絡させていただく。

7. 閉会 (会長)

委員の皆様のご協力により本日の予定を無事終了することが出来た。
これにて、令和4年度第1回利用者懇談会を散会とする。

以上